

ヤマダ法人営業部が教える賢い商品選び

カラーレーザープリンター

「日本一レーザーを売る家電量販店」ならではのノウハウを伝授

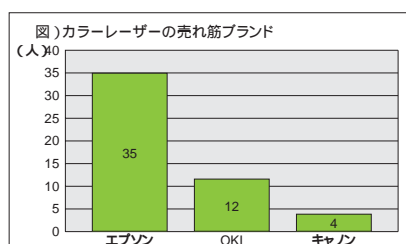
オフィスの人気機器といえば、カラーレーザープリンターであろう。価格もこなれてきておりA3機やA4機など種類も豊富だ。どの機種を選ぶべきか迷っている向きも多いはず。そんな時に頼りになるのが、全国にネットワークを持つヤマダ電機法人営業部だ。日本一レーザーを売る家電量販店だけにその知識は膨大。全国の営業所長に、各商品ごとの購入ポイントを聞いてみた。

図はカラーレーザープリンターについて、全国のヤマダ電機法人営業所長50人に「文句なしに売れていると思うブランド名」を回答してもらい、その集計結果をまとめたもの。数値はそのブランドを感覚的に「売れている」と答えた所長の人数だ（複数回答あり。調査時期は05年10月）。トップはエプソンで、以下、OKI、キヤノンがベスト3であった。

断トツ人気のエプソン

図ではエプソンが断トツであるが、その牽引役はLP-7000Cだ。A3カラー対応機でありながら売価10万円を切った抜群の値頃感や、モノクロ印刷スピードの速さ（40枚/分）などが、発売開始から1年以上経った今でも高い支持を得ている。

「10万円を切ったこともあり、引き続き好調を維持。トナーなどがすぐに手に入る安心感も手伝っている」（星ヶ丘営業所/以下、営業所の表記



は省略)

「7000Cの安さは相当のインパクト。細かい部分にこだわらなければA3機では競合がない」(足利)

「10万円を切る安さと省スペース性がいい」(下館)

「お得感がある。A3レーザーの定位量が確定している感じ」(津)

このようにヤマダ電機法人営業所長からは、そのコストパフォーマンスの高さやA3機としての省スペース性などを評価する声が多く聞かれる。これらの声を大別すると7000Cを選ぶユーザーは「モノクロ印刷メインだが、いざという時にはカラーでも印刷したい」派と「A4メインだが、いざという時にはA3も使う」派とに分けられるようだ。

「モノクロがメインだが、ついでにカラー出力もできるということで7000Cの人気が高い」(会津若松)

「モノクロプリンターからのリプレイスが多く、価格のインパクトで相乗効果がある」(上越)

「10万円を切るA3カラーの安さと、モノクロスピードで競争力が強い」(半田)

「7000Cと9200CはA4メインで使うところに売れる」(青森)

「7000Cは、A4メインに使うユーザーが買っていく」(向ヶ丘)

これらの評価からいえることは、エプソンのLP-7000Cは既存のモノクロレーザープリンターから買い換え機としてや、カラー印刷の重要度がそれほど高くないユーザーにとっては最適のモデルということである。

カラー印刷に強いOKI

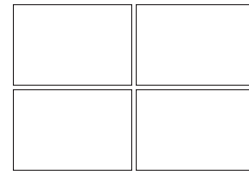
これに対してカラー印刷を重視するユーザーからの支持を得ているのが第2位のOKIである。主力モデルのA3カラー対応機C9150dnに対しては、カラー印刷スピードの速さ（30枚/分）や耐久性（約5年または約100万ページ）などへの評価が多い。

「A3カラー印刷がメインのユーザーには受けがいい。印刷品質はエプソンより上だと思う」(向ヶ丘)。「9150dnはこの数カ月、建築関連企業を中心にコンスタントに出ている。カラー印刷速度と保証の充実が決め手」(平塚)

「耐久性への評価は抜群にいい」(長崎)

「9150dnを推奨。耐久性を全面訴求している」(加古川)

「カラー印刷のスピードと品質で信



エプソン LP-7000C

印刷速度:モノクロ40枚/分、カラー10枚/分。ランニングコスト:モノクロ3円、カラー14.5円。両面印刷に標準対応。

OKI C9150dn

印刷速度:モノクロ37枚/分、カラー30枚/分。ランニングコスト:モノクロ約3円、カラー12.5円。ネットワーク&両面印刷に標準対応。

キヤノン LBP5000

印刷速度:モノクロ8枚/分、カラー8枚/分。ランニングコスト:モノクロ3.1円、カラー16.3円。ウォームアップ時間ゼロ秒。

NEC 1700C

印刷速度:モノクロ25枚/分、カラー5枚/分。ランニングコスト:モノクロ3円、カラー15.2円。ネットワークに標準対応。



頼感がある」(会津若松)

「スピードと画質のよさがポイント。給紙トレイが標準装備されていることもメリット」(武生)

他にも高く評価する声が多数あるが、一方ではボディの大きさへの懸念の声もある。

「A3カラー重視の顧客は常に検討しているが、筐体の大きさで不利な面も」(半田)

「耐久性などセールスポイントはあるが、大きさがネックになることもある」(上越)

「スペックは悪くないが、サイズの大きさがネック」(茅ヶ崎)

新潟営業所長は「筐体の大きささえ目をつぶれば、他の部分は実用性に長けている」と語っているが、これが現状の9150dnを最も端的に表した評価だろう。

C9150dnは4つのドラムで4色を同時印刷するタンデム方式を採用しているため、カラー印刷の品質や速度に優れるが、小型化では一步譲る傾向にある。ここをどう考えるかが購入時の一番のポイントであろう。

A4機はキヤノンかNEC

3位のキヤノンはA4カラー印刷対

応のLBP5000がコンスタントに売れている。コンパクトなサイズやウォームアップ時間ゼロ秒、そして売価5万円台という値頃感などを評価する声が多い。

「5000が売れている。コンパクトなボディ、立ち上がり時間ゼロ秒などがメリット」(旭川)

「5000が比較的好調。ファーストプリントの速さも要因だが、解像度の高さが魅力」(浦和埼大通り)

「一定のキヤノンファンは多く、ファーストプリントにこだるユーザーは、すんなりと買っていかれる」(上越)

キヤノンの場合、商品力もさることながら、そのブランド力の強さも大きなポイントになっているようだ。

「ブランドに信頼を置いているユーザーは、数万円高くてもキヤノンを選択している。トナーの入手のしやすさもポイント」(久喜)

「ユーザーからの指定が多い。品質では一番。5000はこれからもっと売れると思う」(足利)

「最近5000が目立ち始めた。市役所からはキヤノン指定の見積もり依頼が多く、ブランドの信頼感で購入されている」(伊勢崎)

A4カラー対応機でいえば、NECの

1700Cについても一定以上の評価がなされている。

「A4でも構わないユーザーには問題なく売れている」(一宮)

「A4印刷を主力とするユーザーには喜ばれる機種」(半田)

「1700Cは、A4カラー印刷モデルとしては売れている。10万円を大きくきった価格が魅力」(青森)

「個人事業主や小規模企業に売れている」(上越)

では、同じA4カラー印刷対応機であるキヤノンのLBP5000とNECの1700Cでは、どちらを選ぶべきだろうか。ポイントはいくつもあるが、その1つとしては印刷速度だ。カラー印刷を重視するユーザーにはキヤノンの8枚/分が魅力であり(NECは5枚/分)モノクロ印刷重視のユーザーには、NECの25枚/分の方がキヤノン(8枚/分)より先重宝しそうである。

他にもそれぞれ特徴があるため、詳しくはヤマダ電機法人営業カウンターで確かめてほしい。何よりヤマダ電機は「カラーレーザープリンターを日本で最も多く売っている家電量販店」である。当然ながら、その扱いにも慣れており、品揃えも豊富だ。「善は急げ、ヤマダへGo!」である。